

北海道 どうち たかひろ

ゆか

堂地 孝洸(35歳)・由佳(37歳)さん

酪農



新規就農を志した経緯・背景

実家が酪農家だったが一度も牛に触れずに高校を卒業。民間企業に5年勤める間に事後報告で実家の離農を知る。牛や酪農風景が消えてしまったのが寂しくて地元で就農を決意。酪農ヘルパーを経て、運とタイミングで令和5年に実家のお隣さんの牧場に新規就農。

当事業の取組内容

留意点

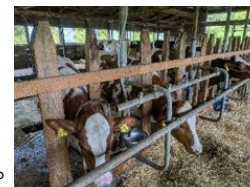
- ・自作できるものは自分で製作しコストを抑えた。
○牛舎内の設備（哺乳牛の仕切り）→前職で身に着けた技術で溶接等を行い製作。
○育成牛のスタンション→木廃材を活用し製作。
- ・JAの担当者が親身になって対応してくれた為、様々な事業を活用して初期投資をかなり圧縮できた。

取組

- ・ベールグラブの導入

効果

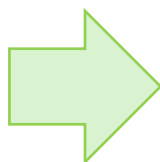
- ・ラップサイレージの運搬が格段に速くなり、牧草収穫作業全体の時間が短縮された。
導入前のロールグラブ：爪2本で挟んで運ぶため、作業に手間とミスの可能性。落としたらラップ破れる、品質低下の恐れなど。
導入したベールグラブ：ロール全体を握るため確実性が高くなった。小回りがきくため、約1.5倍の作業効果が出た。



就農状況と今後

就農準備（H27～R5年）

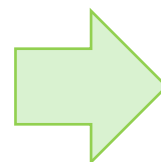
- ・平成27年から酪農ヘルパーとして牛や酪農作業を学ぶ。
- ・令和3年11月から2年間、就農する牧場で研修



経営開始（R5年）～現在

経産牛44頭

- ・令和6年10月に当事業を活用し、**ベールクラブを導入**
- ・昼夜放牧。冬期は舎飼い。
- ・牧草収穫作業は外部に頼らず自分で行っている。



今後の目標（就農10年後）

- ・所得を1.2倍にする。
- ・完全な季節分娩を目指す。
- ・配合飼料の給与をゼロにする。
- ・家を建てる。

北海道 古川 和也 さん (33歳)

畑作



新規就農を志した経緯・背景

農業協同組合職員として6年ほど勤務しているなかで、農業者の高齢化や後継者不在により、地域農業を取り巻く環境が変化していることに気付き、自身も親の経営を継承し、少しでも地域農業の維持・発展に貢献したいと思ったため。

当事業の取組内容

留意点

- ・担い手の不足により経営体1戸あたりの農業面積が拡大しているのが現状であり、継承した経営状況のままでは更なる面積の拡大に資金面・設備面ともに限界があることを家族間で共有した。
- ・経営面積の拡大に備えるために、農作業機械の大型化によって効率化を求める方向性で初期投資を含め目標を設定するように留意した。

取組

- ・薬剤散布機ハイクリブーム

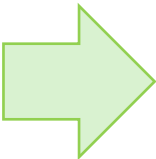
効果

- ・農薬タンクの容量を大型化（500L→900L）したことで、給水回数を約2分の1に減らすことができ、1日あたりの作業面積を増加させることができた。

就農状況と今後

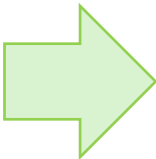
就農準備（R4年4月～R6年3月）

- ・就農準備以前、農業協同組合職員として働きながら基礎知識を深める。
- ・農業協同組合退職後、親元で畑作物の播種から防除、収穫に至るまでの一連の農作業について習得する。



経営開始（R6年）～現在

- そば（1,327a）小麦（1,383a）
大豆（397a）
- ・令和6年に親から農業経営を継承。父親を中心に助言を受けながら、両親とともに農業従事
 - ・**令和7年3月に当事業を活用し、薬剤散布機を導入**
 - ・事業で導入した機械により、省労力で効率よく生産向上を図る。



今後の目標（就農5年後）

- そば（494a）小麦（2,000a）
大豆（513a）
- ・規模拡大を見据えた機械設備の更新
 - ・地域の担い手として経営の確立
 - ・農業所得目標約1,000万円

新潟県 古岩 樹 さん (27歳)

水田作



新規就農を志した経緯・背景

千葉県千葉市出身。高校・専門学校で農業と獣害対策を学び、狩猟免許を取得。学生時代、上越市に移住した友人が働くNPO法人のインターンシップに参加し、中山間地で後継者を探す農家と出会う。卒業後、上越市谷浜地区へ移住し、3年間研修したのち、令和6年4月に認定新規就農者として独立・自営就農した。

当事業の取組内容

留意点

- ・経営の安定化と省力化を図る観点から、必要性及び費用対効果を十分に検討した上で導入を行った。
- ・過大投資とならないよう資金計画との整合性に留意するとともに、将来的な規模拡大や汎用性も考慮し、関係機関の助言を踏まえて選定した。

取組

- ・トラクター30ps 1台

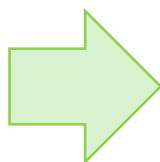
効果

- ・就農初年度は借用のため使用時期に制約があったが、本事業の活用によりトラクターを導入したことで、耕起・代かき等の適期作業が可能となり、天候やほ場条件に応じた機動的な対応が可能となった。
- ・借用調整や費用が不要となり、経営の安定化に寄与した。

就農状況と今後

就農準備 (R 3～R 5 年)

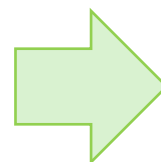
- ・個人農家のもとで研修を受け技術を習得
- ・JAや県から、営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成
- ・市の補助を使い、大型特免許を取得



経営開始 (R 6 年) ～現在

水稻 7.8ha、園芸 6a

- ・令和6年9月に当事業を活用し、トラクターを導入
- ・水稻栽培の経営規模を拡大したほか、鳥獣駆除に取り組んでいる。
- ・ドローンによる湛水直播栽培や高温耐性品種の導入などを進めている。



今後の目標 (就農5年後)

水稻 9.0ha、園芸 14a

- ・直播栽培を継続して技術の確立を目指すとともに、オペレーター同士の連携を深め、防除作業の効率化を進める。

富山県 寺崎 泰さん (50歳)

施設園芸



新規就農を志した経緯・背景

親は水稻＋育苗受託＋ハウス野菜(メロン等)の認定農業者で、JAに勤めていた頃から休日は手伝っていた。

JA勤務時代に広報担当となった際、いろいろな農業者や作物と出会い経営者への憧れが強まり、JAを退職し親の経営を継承、認定新規就農者となり、ハウスメロンを中心とした経営で開業した。

当事業の取組内容

留意点

- ・過剰な設備投資にならないこと、多額な借入金とならないことを念頭に、使用できる継承資産と経営計画を照らし、不足しているハウス棟数、必要不可欠な資産に絞り込み投資計画を樹立した。
- ・町から当事業の紹介もあり、利用できたことで開業時に心配していた資金繰りも目途が立ち、運転資金が確保できたことで円滑な開業につながったと思っている。

取組

- ・ハウス 4 棟
- ・薪ストーブ 2 台
- ・プレハブ冷蔵庫 1 台

効果

- ・新しいハウスは、透過性や耐雪性に優れ、メロン生産の安定化と冬越しの安心感から、予約を視野に入れた生産計画を組める。
- ・冷蔵庫による追熟、廃材を利用したストーブ暖房によるプチヴェールや青パパイヤなど次代を見据えた新規作目をチャレンジできる環境を整えた。

就農状況と今後

就農準備 (R 4 ～ R 5 年)

- ・先駆的な農業者から、実経営の留意事項を見聞しながら、中心作目の選定生産、資金計画等を検討



経営開始 (R 6 年) ～現在

- メロン(10.8a) プチヴェール等(3.6a)
- ・インスタで情報発信をタイムリーに行い、お客様を開拓しながら”顧客”へ定着を図り、直売を中心に予約生産できる体制整備。
- ・**令和 6 年12月に当事業を活用し、ハウス、薪ストーブ、プレハブ冷蔵庫を導入**



今後の目標 (就農 5 年後)

- メロン(10.8a) プチヴェール等(5.4a)
- ・経営の柱としてメロンを据え、秋冬の収入源としてプチヴェールや青パパイヤなど話題となる商品でフォロー頂くお客様の増加を図る。